



「公民館における子育て支援に関する調査」の結果

公民館に対する「子育て支援」(家庭教育支援)の取り組みに関する調査を行いました。今回は、その結果の一部をお知らせします。

全体的にみて、子育て支援に関する取り組みや子育て支援に関わる他機関・団体・サークルと連携していくことに対して、館により大きく違う感じでした。

子育て支援事業・活動の取り組み状況

つくば市にある全17館に対して、子育て支援事業・活動の取り組みを行っているかどうかについて、「既に取り組み、今後さらに充実」「既に取り組み今後も継続」「既に取り組んでいるが今後は縮小」「今後行っていく予定」「今後行う予定はない」の5つの段階でお聞きしました。

子育て支援のうち、最も多くの公民館が取り組んでいることは「子育て中の親に、子育てサークル・子育て支援グループを紹介すること」でした。このことについては17館中7館から既に取り組んでおり、今後も継続または充実していくという回答が得られました。また、「今後行っていく予定」という館は2館ありました。

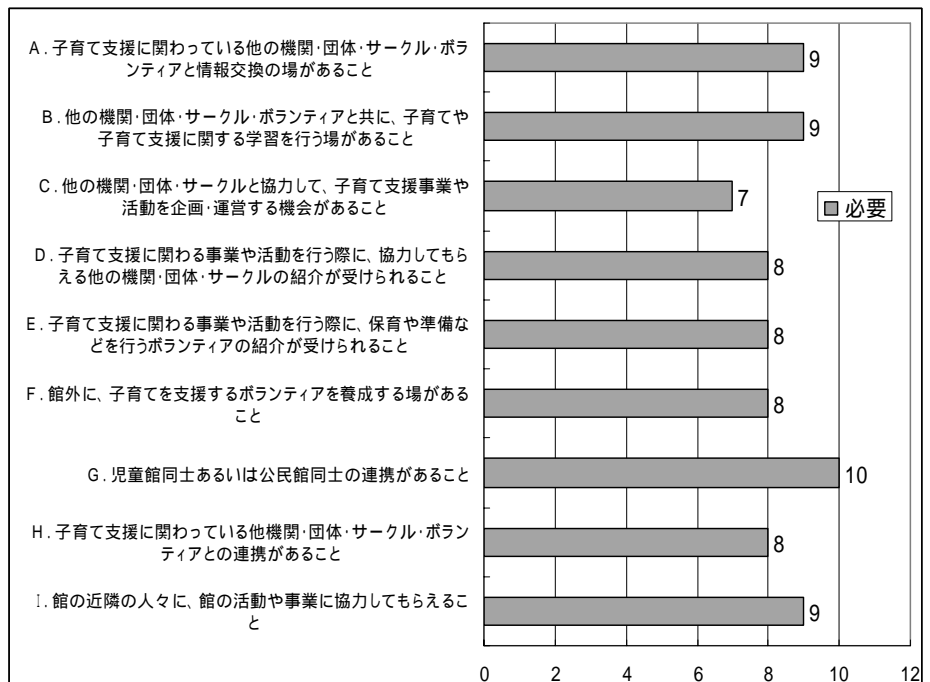
次に多くの館(17館中6館)で取り組まれていることは、「乳幼児期の子どもたちの遊び場や親同士の交流の場を提供すること」や子育てサークルや子育て支援グループに対する援助を行うことでした。

現在取り組んでいる館はありませんが、「今後行っていく予定」という回答の中で、最も多くの館(7館)であげられたのが、「父親向けの子育て講座の開設または父親支援を行うこと」でした。「異年齢の子ども同士で交流できる活動や学び」や「異世代で交流できる活動や学び」の企画については、4館で今後行っていきたいと考えているようです。

子育て支援事業・活動の取り組み状況

公民館が子育て支援事業や活動を行っていく上で、他の機関・団体・サークルやボランティアとの連携・協力に対してどの程度必要としているかをお聞きしました。

連携・協力が必要であると感じている館は、約半数の館でした。その中で多かったことは、「公民館同士の連携があること」(10館)、「情報交換の場があること」(9館)、「子育てや子育て支援に関する学習の場があること」(9館)でした。また、事業や活動を行う際に、協力してもらえる他の機関・団体・サークル、ボランティアの紹介が受けられることを必要であると感じている館は8館でした。



🍷 「保健センターにおける子育て支援」の紹介 🍷

－ 第 5 回 「かるがも・ねっと」 学習会より －

2月21日の学習会では、「保健センターから子育てを考える」という題目で、つくば市健康増進課桜保健センターの係長（保健師）である飯村みどりさんにお話を伺いました。保健センターが取り組んでいる母子保健事業についてご紹介します。また、話し合いの中で、母子保健推進員の橋本さんから、母子保健推進員についてお話を伺うことができましたので、あせてご紹介します。

1. 保健センターにおける母子保健事業

保健センターにおける母子保健事業には、妊婦や乳幼児の健康診査、予防接種、妊娠・出産・育児に関する学習の場の提供、妊産婦や新生児に対する訪問・相談、があり、妊娠を届け出た際に母子健康手帳と別冊を配布するところから始まります。

妊婦健康診査は、妊娠前期・後期各1回を無料で受けられます。平成16年度からは県外の医療機関でも受診できるようになりましたが、相手先の医療機関の受け入れを調べますので、まずは健康増進課にお問い合わせください。

乳幼児の健康診査は、該当の時期が来たら個人通知でお知らせします。お子さんの体調が悪くて受けられなかったときや、お小水がなかなかとれないときなどは、別の日程や他の保健センターで受けることもできます。

予防接種については、法改正によってスケジュールや内容が年度の途中に変更される場合がありますので、桜保健センターの担当にお問い合わせください。たとえば4月からは、皮内テスト(ツベルクリン反応検査)をせずに直接BCGを接種するよう変更になります。

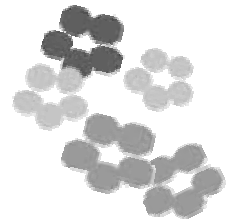
妊娠・出産・育児に関する教室のうち、妊産婦向けの「マタニティクラス」では妊娠・出産・育児の基本的な学習と、核家族で転入される方が多いつくば市での仲間づくりを行っています。初めて出産を迎えるパパも対象の「パピママクラス」では、父親が育児参加の基礎知識として、妊婦さんの疑似体験や、赤ちゃんのお風呂の入れ方を学びます。そこで、父親になることを自覚したり、奥さんの体調や気持ちを理解したりするようです。出産後には「あかちゃんランド」があります。初めてのお子さんですと戸惑いが多いでしょうし、核家族が多いので、お母さんがひとりで子育てに悪戦苦闘していると思います。ですから、ここでも仲間づくりが目的のひとつです。その日のプログラムが終わった後には、和室でお母さん方の楽しいおしゃべりがたえません。

「すこやか健康相談」は各センターで月に1回ずつ行っています。お子さんの成長の確認や、離乳食の相談が多いですね。その他、母子手帳の別冊についているハガキで「子育てハガキ相談」も受けつけています。育児に困ったり迷ったりしたときに書いて送ってもらえたら、保健師が電話で、または訪問してお話をおうかがいします。

ことばの発達に心配がある子には「のびのび子育て教室」があります。ここでは、発達をうながすような親子遊びを取り入れた指導を保育士と一緒にやっています。また、ことばやその他の面での発達に心配のある子に対する「発達相談」は、お母さんの悩みを聞いたり、お子さんの様子を見たりしながら、個別に行っています。

母子手帳をお渡しするとき、出生届を提出に来られたときなど、「困ったら、電話でもかまいませんので、ご相談してください」と声をかけるようにしていますが、何かお困りの際には、ぜひ、保健センターが行っている各種事業を活用してほしいと思います。

センターでは成人や高齢者の健康に関する仕事もあり、母子保健だけに力を注げるわけではないので、スタッフが不足して行き届かない部分があるかもしれないことが課題です。



2. 母子保健推進員

保健センターの事業をお手伝いする母子保健推進員は、合併してつくば市になる前から活動をしている、母子保健事業には欠かせない存在です。母子保健推進員の仕事には、三歳児健診の際に、一緒に連れてきた下の子の面倒を見たり、子育ての相談を受けたりすることや、「のびのび子育て教室」でのお手伝いなどがあります。つくば市では大穂・豊里・筑波・荃崎の各地区の保健センターに約 20 名ずつ母子保健推進員が置かれていますが、桜地区と谷田部地区にはそのニーズがないとかで、長い間置かれていません。これらの地区は核家族が多いので、本来ならば母子保健推進員をより必要としているのではないかと思うのですが。

合併前の荃崎地区では母子保健推進員が多くいたため、現在の子育て支援センターの活動に近いことまで行っていたそうです。しかし、合併によって荃崎地区の母子保健推進員の定員が減り、こうした活動にまで手が回らなくなりました。そのため、荃崎地区の子育て中のお母さん方は、桜地区など遠くの子育て支援センターまで足を運ばなくてはならなくなり、不便になったという声が聞かれます。

3. 意見・提案

- ・保健センターで、小学生に対し、赤ちゃんと触れ合ったり勉強したりする機会を設けたところ、親に対する感謝の気持ちが芽生えた、というエピソードがありました。一人っ子や下にきょうだいがいない子は、なかなか赤ちゃんと触れる機会がありません。そのようにして育った子どもが、将来大人になって子育てをするとき、戸惑いが多いのではないのでしょうか。そこで、小・中学校の段階で、男の子も女の子も子育てについて学べる機会や、異年齢の子どもどうしのかかわりがもっと持てるような機会があれば、という意見がありました。
- ・保健センターをはじめ、子育てに関係する部署が多くありますが、それらの横の連携がとれていないことが問題になりました。健診や予防接種などは保健センターでしかできないことですが、保健センターで行っている子育てに関する講座や教室、相談事業などは他の人が代わって引き受けることができそうです。子育て支援として各所で行っていることを整理して、協力して行っていくことが必要だという声が聞かれました。
- ・他の地域からつくば市に転入されてきた方は、まず、自分の住む地域のこと、たとえば病院がどこにあるのか、といったことがわかりません。さらに、妊娠したら、子育てについての不安も加わります。そのようなときに保健センターでは、子育てをするためのアドバイスとして、その地域でのお友達づくりをすすめているそうです。この点について、保健センターなどに、その地域で行っているサークルや母親クラブなどの活動を紹介できるようなコーナーを設けたり、入り口に必要な冊子を置いておき、自由に持っていけるようにしたりしてはどうか、という提案が参加者からありました。

『(仮称)子育て支援ハンドブック』のワーク



2月の学習会では、筑波大の教育社会学研究室がつくっている『ハンドブック』の下案を使って、ワークショップを行いました。どんな題名がいいか？ハンドブックの大項目(柱)の表現はどんなものがいいか？内容は？。3つのグループに分かれて、話し合いを行いました。「タイトルは？」では、「子育てははじめの一步」「子育て支援のわ」「つくばべんり帳」の子育て版で、つくば子育てべんり帳」など。大項目では、「『教えて』、より『学ぼう』のほうがいい」「『一緒に遊ぼう』はわかりにくい」などなど・・・。時間を大幅に超えて、活発に、様々な意見が出されました。

皆さまからいただいたご意見を参考にして、研究室の方では、現在、改良中です。ここでは、その一部をご紹介します。

「子育てするなら・・・」「つくばで子育て」で、子育ての各窓口になる「地域子育て支援センター」、「保健センター」、「子ども課」の紹介に。

「一緒に遊ぼう」「仲間をつくろう」で、様々な子育てサークルを紹介

「教えて、子育て！学ぼう、子育て！」「遊びに行こう！」「学びに行こう！」にわけ、遊び場の紹介と子育てを学べる場の紹介に。

「困ったときには」「緊急！困ったときに」として、裏表紙へ。など・・・。

この他、調査票からいただいた情報をもとに、各項目に内容を入れていっています。

♡♡お知らせ♡♡

第6回学習会は新座子育てネットワークへの視察になります！！

今回は、NPO法人新座子育てネットワークに訪問して、代表理事の坂本純子さんらにお話を伺うこととなります。「かるがも・ねっと」が今後どのように活動していくのか、また、つくば市における子育て支援を考える上で、参考になるのではないかと思います。ぜひ、参加してください。

新座子育てネットワークは、子育てサークルの卒業を目前に控えた母親たちが、活動を通じて感じた地域の課題を共有しようと、「子育てサークルサミット」の実施したのがきっかけだそうです。現在、新座市生涯学習課や子育て支援課と協働して、地域子育て支援センター「るーえん」や子育てサロン「セサミ」の事業、子育てサポーター養成などを行っています。また、このネットワークでは、子育て支援を受けていた人が、子どもが幼稚園に入った段階で、今度は子育て支援の側にまわるという形ができています。様々な年齢層の人々が関わっている団体でもあります。

日時：平成17年3月26日(土) 13:30～16:00

場所：埼玉県新座市にいざほっとぷらざ

集合場所：桜庁舎玄関前 バスにて10:00の出発予定

今回は、事前に参加申込が必要となります。詳細は別紙をご覧ください。

募集！！

☆ 子育て支援に関するイベントや情報などを募集しています。

ニュース・レターは毎月7日頃に発行する予定です。それにあわせて、イベントの情報(タイトル、内容、開催日時、場所、問い合わせ先)をお知らせください。

* 毎月30日までに下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

☆ ニュース・レターに使用するイラストを募集しています！

「花、家、子ども、親子、動物、飾り、季節もの」などのイラストを募集します。

問い合わせ先：FAX 029-853-4829 / メール edu_socio@yahoo.co.jp

(筑波大学教育社会学研究室)

発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと** (設立準備委員会)

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークでつくりられています。

発行日：2005年3月5日

編集：遠藤宏美・渡辺恵

問い合わせ先：edu_socio@yahoo.co.jp / FAX: 029-853-4829 (筑波大学教育社会学研究室)